

4 「こんな鹿島になったらいいな」作品コンクール入選作品

「こんな鹿島になったらいいな」というテーマで、子どもたちが思い描く未来の鹿島を、作文・絵画・かべ新聞の作品にして応募してもらいました。

平成26年の夏休みの宿題の一つとして募集を行い、作文42点、絵画125点、かべ新聞25点とたくさんの応募がありました。

各部門の入選作品は以下のとおりです。（敬称略）

【作文の部】

○市長賞

「こんな鹿島になったらいいな」

浜小学校 6年 有森 慎太郎

ぼくは、今、思い浮かべている理想の鹿島があります。そして、その鹿島が実現すればいいなあと思っています。その鹿島というのは、観光客がいっぱい来て、自然豊かなところが多い鹿島です。

まず、「観光客がいっぱい来る町」にしたいです。それは、有名なものがたくさんできて、それを求めて、多くの人がやってくるということです。鹿島で有名といえば、古枝にある、祐徳稲荷神社や、七浦のガタリンピック会場です。また、浜には、町並保存会もある、浜の町並みが有名です。でも、全国的には無名です。宣伝をして、マイクロバスがいつも観光客をつれてくるようにしていけたら人がいっぱい集まると思います。浜町は、水がきれいなので、お酒も有名です。「魔界へのいざない」や「鍋島」「能古見」というように、有名な酒がたくさんあります。これも、もっと宣伝していけば、酒好きの人がたくさん集まってくれると思います。

次に、「自然豊かな町」にしていきたいです。鹿島には、緑がたくさんあります。でも観光客がきたら、ごみが増えてきたなくなると思う人がいるかも知りません。だから、「ポイステ」をしたら、ばっ金をはらうといった、決まりを作って規制すべきだと思います。緑を大切にしつつ、ごみを増やさないように、みんなのいしきが変わってくれるようによびかけをしていく必要があると思います。

また、道のごみ、山のごみ、海のごみを拾う活動をもっとひんぱんにもうけて、ゴミを減らすようにしていけばいいと思います。

さらに、鹿島は、ぎび山公園に、サッカーや野球、陸上競技はできますが、大きな体育館がありません。大きな室内スポーツの大会ができたり、コンサートやひなん所などにかわれる大きな体育館があると私たちは、安心して生活ができると思います。大きな体育館や市民会館があると、たくさんの人が集まり町も豊かになっていくと思います。

さらに、大きな会社や工場が鹿島に来るといいなあと思います。大きな会社があると、働く人も必要となり、人々も鹿島に集まってきます。それに、税金を払ってもらえるのでお金が集まり鹿島の町は豊かになっていくと思います。

ぼくは、大人になったとき鹿島が活気がなくて小さな町になってほしくないです。今、ぼくは、鹿島の町が大好きです。だから、武雄とかにまけないでほしいです。ビルとかお店とかを増やすのではなくて、人が住みやすいきれいな町、そして人のたくさん集まる町にしてほしいなあと思います。

○教育長賞

「こんな鹿島になったらいいな」

浜小学校 6年 中島 慈苑

ぼくは、将来鹿島市に住み鹿島市で働きたいです。もし他の県や町で働いても、後では鹿島に帰って来たいと思います。

これからの鹿島市のために、一つ目はごみのない鹿島市がいいです。もし川にごみがたくさんあったら川の水がよごれ有明海でおいしい魚やのりが取れなくなるからです。だからごみは、街や川に絶対に捨てないようにします。それに、鹿島市に来た人が「鹿島市はとてもきれいな町だ。」と言ってもらえるようにしたいです。そこに住んでいるぼくたちも気持ちいいと思います。

二つ目は、有名な鹿島市になりたいです。

佐賀県、以外の人も知っている鹿島市になってほしい。「鹿島市」と言えば「あー。九州の佐賀県にあるね。」とだれでも知っている鹿島市になってほしい。

鹿島には、祐徳神社や浜宿街道、七浦の干潟体験、旭ヶ丘の桜など有名な建物やすばらしい場所がたくさんあるので、もっとたくさんあります。それに、みかんやのり、おいしいお米や野菜など鹿島には、おいしい物もたくさんあるのでもっとたくさんの人にぜひ来てほしいです。

8月には、「鹿島おどり」があります。ぼくたちは、去年と今年出場しました。今年はなんと、子供部門で最優秀賞をもらいました。この事は、きっと一生の思い出になると思います。

三つ目は、鹿島市にもっと働く場所の会社を建てると鹿島市にもぎやかになるし住む人も増えると思います。人口が増えるとレストランやお店などもたくさん増えるから、またその店でも人が働けるから、どんどん人口が多くなりぎやかな市になると思います。

ぼくのお母さんが小学生のころは、子供の数も、もっと多かったし休日になると鹿島市内などのお店などにもっと買い物のお客さんが多くいたと話していました。ぼくのお母さんの実家は、塩田だけど休日は、よく鹿島に行っていたと言っていました。

でも人口が増えると事故や悪いことをする人も増えるかもしれない。だから安全、安心な街作りを心がけないといけないと思います。

ぼくは、自まんでできるような鹿島市であってほしいし、ぼくたちがそうしていきたいです。

○実行委員長賞

「未来の鹿島」

北鹿島小学校 3年 江島 由菜

わたしは遊園地が大好きです。いろんな乗り物があってワクワクするからです。だからわたしが大人になった時に、好きなかしまに東京ディズニーランドのような遊園地があったらいいなと思いました。

遊園地の名前は、「かしまランド」です。さくらのトンネルを登ると、赤門の入り口があります。目の前には、かし丸君のおしろがたっています。中に入ると、かし丸君のお部屋が見れたり、かし丸君といっしょに写真がとれる場所があります。おみやげ屋さんもあって、ぬいぐるみやおかしがたくさん売っています。レストランでは、みかんやイチゴのパフェやトマトのジェラードを食べることができ、とてもおいしいです。むつごろうのジェットコースターや、かし丸君のかんらん車には行列ができています。夜にはかしまおどりのパレードや花火があり、朝から夜までにぎやかです。かしまの人は親切でやさしいので、かしまランドに来た人は何日もとまりたくなくなります。

遊園地がどんどん人気になると、かしまに住みたい人がふえます。かしま市は2階だてになっているかもしれませんが、1階は畑や田んぼ、山などで、2階に住む所やお店があります。エレベーターでつながっているので、とてもべんりです。おいしいやさいやくだものも、今と同じようにいつでも食べられてうれしいです。

こんなかしまなら、外国の人もたくさん来るようになると思います。わたしのゆめは、キャビンアテンダントになることです。好きなかしまを外国の人にも教えてあげたいです。

「みなさまもうすぐこのひこうきは、かしま空港にと到着します。かしまの旅を楽しんでください。」と言っていたら、さい高だなと思います。

○特別賞

「こんなかしまになったらいいな」

明倫小学校 2年 江島 千颯

わたしがしちょうになったら、かしまに大きな学校をつくります。

どれくらい大きな学校かというと、かしま市の7つの学校のみんながかよえる大きな大きな学校です。

きょうしつも大きいですが、たいいくかんも大きくて、ぜんこうせいとがめんぶりゅうをおどれるくらい大きいです。そしてうんどうじょうは、ぎびざんのりくじょうきょうぎじょうの2ばい分ぐらいの大きなうんどうじょうです。みんなうんどうじょうにでて、十分なひろさです。

しいくごやは、どうぶつえんです。かしまは、しぜんがいっぱいなので、そこにそのままどうぶつをかいます。学校で生きもののけんきゅうができます。

そして、かしまはほしもきれいに見えるので、りかしつを、うちゅうかがくかんにして、ひるでもほしをかんさつできるしせつにします。

学校のせつびだけでなく、きゅうしょくは、かしまのやさいをたくさんつかったりよりで、バイクをつくりたいです。

プールはおんせんでウオータースライダーもついています。となりはホテルなので、いのこりべんきょうの人やかぞくもとまれます。としょしつは、としょかんのように、よみきかせをするへやもあって、とても本がたくさんあります。

わたしはこんながっこうをつくりたいです。そしたら、とってもニュースになって、かしましにすみたいというひとが、ふえるとおもいます。

【絵画の部】

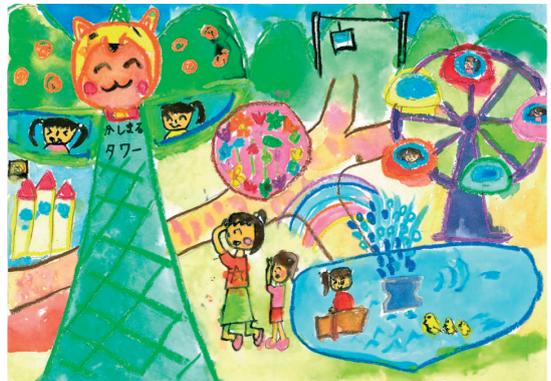
○市長賞

古枝小学校 6年 桂原 拓輝



○教育長賞

明倫小学校 2年 大曲 陽菜



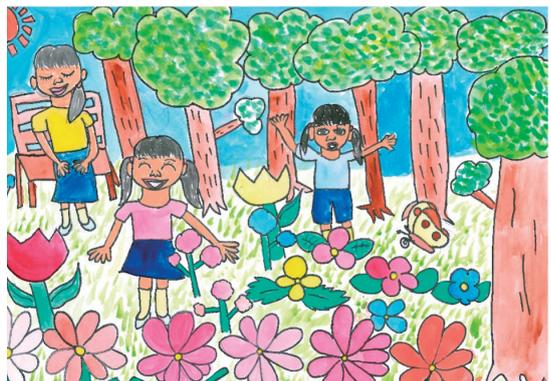
○実行委員長賞

古枝小学校 4年 松尾 花恋



○特別賞

明倫小学校 3年 樋口 梨々花



【かべ新聞の部】

○市長賞

北鹿島小学校 6年1組



○教育長賞

浜小学校 5年1組



○実行委員長賞

能古見小学校 5年1組



○特別賞

明倫小学校 6年

森 杏菜、中村 千尋、徳村 あいり、野田 愛来



5 市内主要団体との意見交換会

総合計画に市民みなさんの意見を反映していくために、市内の主要団体の代表のみなさんとの意見交換会を開催しました。

これらのご意見は、総合計画の基本計画を策定していく中での検討資料とさせていただきます。

開催日 平成26年11月27日

参加者 以下の市内16団体から参加していただきました。

- ・ 鹿島市老人クラブ連合会 ・ 鹿島市区長会 ・ 鹿島嬉野森林組合
- ・ 鹿島市文化連盟 ・ 鹿島市体育協会 ・ 鹿島ロータリークラブ
- ・ 鹿島市観光協会 ・ 鹿島市青少年育成市民会議
- ・ 佐賀県農業協同組合鹿島支所 ・ 佐賀県有明海漁業協同組合鹿島市支所
- ・ 鹿島商工会議所 ・ 鹿島ライオンズクラブ ・ フォーラム鹿島
- ・ 鹿島青年会議所 ・ 鹿島市PTA連合会 ・ 鹿島市社会福祉協議会

(順不同)



主な意見のまとめ

(フリートークに近いかたちで、様々な分野にわたる意見が出されましたので、ここでは分野ごとに整理して掲載しています。)

【産業の分野について】

- ・ 中心市街地に人通りがない。閑散としている。大型店舗がなく、一度に買い物ができない。
- ・ ホテルなどの宿泊施設が少ない。
- ・ 高校生の就職希望先はほとんどが県外と聞く。理由として鹿島市には大きな企業が少なく感じているようである。鹿島市には大きくはないが良い企業がたくさんあるので、高校生や大学生が定期的に鹿島市の企業を見学できる体制をとってもらいたい。
- ・ 地元でとれた農作物を食べることの重要性を子どもたちに伝えなければならない。
- ・ 六次産業が重要になってくる。海道するべの活用策として、シェフを招いての講座や料理教室の開催、商品化までのサポート体制を充実してもらいたい。

【福祉・保健・医療の分野について】

- ・小児科医が少ないため子育てがしにくいとの意見が多い。医療の面からも子育て支援に取り組んでほしい。
- ・高齢者が住み慣れた地域で必要な医療や介護をうけて生活することができる仕組みおよび自助互助の強化による地域で支えあうまちづくりを計画に盛り込んでほしい。
- ・子どもの医療費手続きについて、申請を簡素化してほしい。

【都市基盤・環境の分野について】

- ・都市道路や駅周辺が貧弱なので、整備をお願いしたい。西牟田地区のモリナガ周辺は人と車が多く行き交うが、道路が狭く高齢者の方は行きづらいと感じている。
- ・市内のアパートは高いので、よその町で部屋を借りているという話を聞く。鹿島市から転出していかないためにも、市外からの転入者に対する優遇だけでなく、鹿島市の人が世帯をつくったときにも補助するなどの施策を考えてほしい。
- ・循環バスは鹿島地区内だけだが、他地区からも走らせたほうが良い。
- ・これからも子どもたちが自然に触れ合うことができるよう環境保全をお願いしたい。

【教育・文化の分野について】

- ・市役所のどこかの部署に子育てや教育の道筋を提案してくれるプロフェッショナルの方がいてもらえれば連携した活動が行える。
- ・若い人を地元で根付かせるためには教育しかない。
- ・まちづくりは人づくり。勉強はもとよりスポーツも一生懸命やることで、将来を担うリーダーをつくっていくことが大事。

【総務・その他の分野について】

- ・総合計画については、どんなに素晴らしい計画ができあがっても、市民が知らないという意味がないと思うので、広報にも力を入れてほしい。
- ・総合計画が計画どおりに実施されることを望む。
- ・情報発信力が弱い。イベントなどにしても知らなかったという市民が多い。
- ・女性の活用、人口減少に対する施策、働く女性に対する支援をお願いしたい。

6 中高生との意見交換会

中高生の視点で、鹿島市のイメージや、将来の活性化のためのアイデアなどを発言してもらいました。

各学校を代表して参加してもらった中高生の皆さんは、物怖じすることなくしっかりと自分の意見を発表してくれました。

これらのご意見は、総合計画の基本計画を策定していく中での検討資料とさせていただきます。

開催日 平成26年12月11日

参加者 中高生8人参加（西部中学校、東部中学校、鹿島高校、鹿島実業高校より各2人）



主な意見のまとめ

（様々な分野にわたる意見が出されましたので、ここでは分野ごとに整理して掲載していません。）

【産業の分野について】

- ・若い人向けのお店が少ない。ホテルなどの宿泊場所が少ない。
- ・鹿島の特産品や自然をもっと全国にCMなどでアピールしてはどうか。
- ・市の特産品を使ったレストランをつくってほしい。（雇用創出にもなる。地産地消。）
- ・干潟を利用して、泥パックなどの開発ができないか。

【福祉・保健・医療の分野について】

- ・子どもが生まれたときの助成金などを高くすれば、少子化対策になるのではないか。
- ・共働きが多い。育児ができるサポートをしてもらいたい。
- ・子育てサークルを知らない人が多いと思う。もっとアピールしてはどうか。

【都市基盤・環境の分野について】

- ・交通が一番不便だと思う。（高速道路がない。新幹線が通らない。）
- ・空き家に低価格で住めるようにする。
- ・鹿島地区だけでなく、他の地区も発展させていってほしい。鹿島地区から離れれば離れるほど、暗くなっていく。
- ・佐賀市などと比べて電車やバスが不便。市内なら自転車で移動できるが、市外に行くときに不便。
- ・バスの料金が安い。佐賀に（JRで）行くより嬉野に行くほうが高くつく。

【教育・文化の分野について】

- ・進学するときなどにお金があるので、補助があったらいいと思う。
- ・ふれあい囲碁を実施しているが、さらに発展させて囲碁のまちの友好結縁を結んで、対抗戦などを開催したり、囲碁大会などで観光につなげられないか。
- ・公共施設の開放。体育館やグラウンド、テニスコートなどを無料化してほしい。
- ・市民会館の建て直しをしてほしい。きれいになったら利用者も増える。

【総務・その他の分野について】

- ・地元のイベントスタッフとして、地元の子どもにお願いすれば、子どもも大人も盛り上がり、活気あふれるまちになるのではないか。
- ・かし丸くんをもっとアピールしてほしい。

7 大学生世代へのアンケート

将来の鹿島市を担う若い世代の意見を総合計画に反映することを目的に、大学生世代（19歳から22歳までの人で、市内在住・市外在住・社会人・学生の別は問わず。）の若者にアンケート調査を実施しました。

その結果、大学生・短大生24人、専門学校生2人から回答をいただきました。

すべて記述式での回答ですので、以下に主なものを掲載しています。

問1 現在の鹿島市にどんな印象をもっていますか。

- ・自然がたくさんあっていいところ。高齢者の方には不便なところもあると思う。
- ・緑豊かで、地域住民同士の交流も深く、温かい街だと思う反面、観光名所や宿泊施設、レジャーランドなどは発達しておらず他県からの認知度はかなり低い。
- ・自然豊かで、水がおいしい。いいものはたくさんあるのにPR不足で宝の持ち腐れになってしまっているように思う。

問2 今まで行ったところと比べて鹿島市が不便だと感じているところは何ですか。

- ・バス・電車の本数が少ないと思う。市内の中心街から離れて暮らす高齢者にとっては、スーパーなどがいないため、買い物難民になると思う。
- ・電車やバスなどの本数が少なく、通学や通勤が不便。
- ・都市へのアクセスが不便。また、商業施設や宿泊施設が少ない。

問3 今まで行ったところと比べて鹿島市が優れていると感じているところは何ですか。

- ・空気がきれい、水がおいしいなど自然環境が優れている。また人が優しく、人と人のつながりがある。
- ・騒音がないところ。
- ・自然豊かで他の町にないような誇れる観光名所や地酒などがある。子どもを育てる環境として最適である。
- ・ガタリンピックなどイベントが多い。

問4 人口減少に対して、鹿島市はどんな対策をとればよいと考えますか。

- ・ 30～40歳代が定住しやすい政策。子育てがしやすい政策。学校教育の充実。
- ・ 高齢者と母子を集めて、母親の子育てレスパイト（一時預かり事業等による休息）事業など、子育て支援に力を入れて、地域住民全員で子育てを見守るまちにしていけば、安心して暮らせるまちとして、人は集まってくると考えます。
- ・ 土地を整地して、格安で売り、若い世代に定住してもらおう。住みやすい場所だというイメージを押し出す。企業を誘致して雇用を増やす。武雄ICまでのバイパスか有料道路をつくる。
- ・ 人口減少の原因の大きな要因の一つは、若者が鹿島から出ていくこと。そうしないためにも働き口を増やす必要があると思う。これから高齢者の割合が増えていくと考えるので介護サービスを充実させたほうがいいと思う。

問5 もしあなたが市長になったら鹿島市をどんな「まち」にしたいですか。

- ・ 子どもからお年寄りまでが安心して暮らせるまち。
- ・ もっと鹿島市のPRをして、いろんなイベントに人が集まるまちにしたい。企業誘致をし、定住してもらえるまちにしたい。
- ・ 若い人が住んでいく上で、利益を多く得ることができるまちにしたい。
- ・ 県外や、他の市に出て行っても、胸を張って自慢できるまち。田舎でも良いので、住んでいる人が豊かな人が多いまち。

問6 その他、ご意見や要望など。

- ・ 若者が目を引くようなPR活動をしてください。
- ・ 大学を出たら鹿島に戻りたいと考えているが、就職先が少ないため、鹿島で就活する決心がつかない。

問7 回答された方に該当するものを選択してください。

- ・ 大学生・短大生 24人
- ・ 専門学校生 2人

8 総合計画審議会による審議

市民アンケートや意見交換会などによる市民のみなさんのご意見や第五次総合計画の進捗状況、現在の社会情勢などを検討の土台として、庁内の各専門部会で基本計画の原案作成を進めました。

そこでできあがった「原案」を、庁内の策定企画委員会で総合的な検討・調整を行い「第六次鹿島市総合計画（素案）」を作成しました。

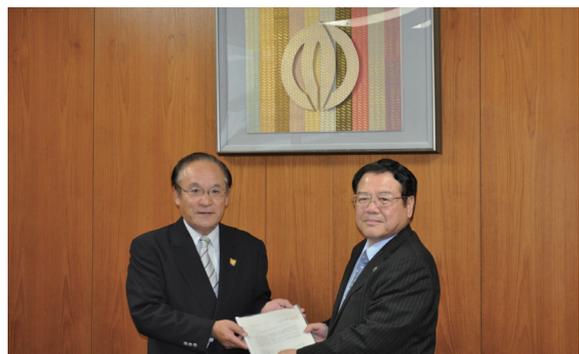
庁内成案である「素案」を市民目線でチェックしていただくために、市内の公共的団体からの推薦委員や一般公募の委員から組織される「鹿島市総合計画審議会」に諮問をしました。

全6回にわたる審議会において慎重かつ熱心な審議を重ね、平成27年11月9日に審議会の中村会長から樋口市長に修正事項を織り込んだ「第六次鹿島市総合計画（素案）」の答申がなされました。

○ 鹿島市総合計画審議会 委員名簿（順不同・敬称略）

◎会長、○副会長

委員区分	氏名	所属等
公共的団体等の代表者	高松 昭三	鹿島市老人クラブ連合会
	山口 賢治	鹿島市区長会
	中島 清光	鹿島嬉野森林組合
	向井 幸子	鹿島市文化連盟
	◎中村 雄一郎	鹿島市観光協会
	森田 康子	佐賀県農業協同組合鹿島支所
	山下 ゆかり	佐賀県有明海漁業協同組合鹿島市支所
	西 一郎	鹿島商工会議所
	太田 尾浩	フォーラム鹿島
	尾崎 正見	鹿島市PTA連合会
	諸上 友美	鹿島市社会福祉協議会
公募委員	○松尾 佑一郎	
	前田 邦昭	
	山口 文吉	
	小川 雅義	
	峰松 宏光	



○ 鹿島市総合計画審議会への諮問

鹿島市総合計画審議会
会長 中村雄一郎 様

鹿市企財第275号
平成27年7月1日

鹿島市長 樋口久俊

第六次鹿島市総合計画について（諮問）

鹿島市総合計画審議会条例（昭和53年条例第19号）第2条の規定にもとづき、第六次鹿島市総合計画（素案）（平成28年度～32年度）について貴審議会の意見を求めます。

○ 鹿島市総合計画審議会からの答申

鹿島市長 樋口久俊 様

平成27年11月9日

鹿島市総合計画審議会
会長 中村雄一郎

第六次鹿島市総合計画（素案）について（答申）

平成27年7月1日付け鹿市企財第275号により諮問された第六次鹿島市総合計画（素案）について慎重に審議した結果、計画の基本的な考え方は、本市を取り巻く社会情勢や人口減少対策のための地方創生の取り組みを重視するなど、時代の潮流を踏まえたものであり、今後5年間の本市のまちづくりの指針として概ね適切なものと認めます。

つきましては、各委員の意見に基づく修正事項を織り込んだ「第六次鹿島市総合計画（素案）」を付して答申いたします。

なお、計画の推進にあたっては、下記の事項に十分配慮され、目指す都市像である「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」の実現に向け取り組まれることを要望します。

(答申書つづき)

記

○市民への周知について

総合計画のコンセプトの一つに掲げられているように、わかりやすく簡潔に表現され工夫がなされているが、推進にあたっては、市民と行政が計画を共有することが重要である。

については、第六次総合計画の内容が市民一人ひとりに届くよう、丁寧な周知に取り組みたい。

○社会情勢の変化への対応

当初計画は、あくまで策定時の社会情勢を背景とした計画であり、計画の前提となる社会情勢に大きな変化が生じたときには、これに固執することなく、個々の施策の緊急性や優先度を再検証するなどの対応を図られたい。また、必要性があれば総合計画の見直しも含めて柔軟な対応を図られたい。

○効果的な計画推進について

厳しい財政状況ではあるが、計画に掲げた取り組みの実現に向けて、最少の経費で最大の効果をあげるために、財政計画との連動を考慮しつつ、選択と集中の考え方により、積極的かつ効果的な施策の展開を図られたい。

また、財源確保においては、国や県の支援の積極的活用はもちろんのこと、官民連携手法の検討などにより、堅実な計画の推進に努められたい。

○適切な進捗管理

目標を掲げて5年間で集中して取り組む施策については、毎年度進捗状況を把握・点検し、より効果的な実施手法について検討を図られたい。

○実施計画について

本審議会では、鹿島市総合計画に関する規程に従い、総合計画の根幹となる基本構想、基本計画についての審議を行った。

具体的な事業化のためには、毎年、庁内において詳細な計画である実施計画を策定されるものと考えているが、実施計画の策定にあたっては、上位計画である基本計画に掲げる施策の展開方向に沿った事業であるかなど、上位計画との整合性について十分に検証され、総合計画全体が一つの体系を成すことで確実な効果を発揮できるよう取り組まれたい。

以上